



用水路沿いの植物

春に用水路に沿って散策した時は、水路の中には落ち葉と常緑の羊歯植物が生えている状態でした。7月頃からあらゆる植物が育ち始め、いまや水路の中は緑で埋まっています。

今回は、今後も緑豊かに育ち続ける羊歯植物を2種類紹介します。

こもれびの森の中には、オシダ科・ヒメシダ科・メシダ科の16種類ほどが確認されています。

羊歯植物の定義は学術的にも難しいのですが、羊歯植物の特徴として以下の事を知っておきましょう。(野口)

- * 維管束植物の中でも花を咲かせない非種子植物
- * 葉の裏側に孢子嚢があり孢子で子孫を増やす
- * 葉緑体があり光合成をする

ヤブソテツ「藪蘇鉄」(オシダ科 ヤブソテツ属)

樹林下や道端の石垣などに生える常緑性多年草

根茎は短く斜上し葉を束生する

葉身は1回羽状に分裂し長さ30~90cm

独特の点状孢子嚢群が散在する

葉柄には濃い褐色の大型鱗片がある



ヤブソテツ

ミヤマイタチシダ「御山鼬羊歯」(オシダ科 オシダ属)

樹林下に生える半常緑性多年草

根茎は短く斜上し接近して有柄の葉を出す

葉身は2回羽状複葉となり長さ20~40cm

孢子嚢群は葉身の上半分に生じ小羽片の中脈ぞいに並ぶ
羽軸にはほとんど鱗片は残らない



ミヤマイタチシダ

こもれびの森の樹木(35)

イイギリ (イイギリ科イイギリ属)

11月、秋空を背景に少し黄色がかかった葉の陰に赤く色付いたブドウの房のような実が沢山ついています。

一粒8mmほどの大きさの実の中



に、多くの小さな種子が入っています。実はそれほど美味しくないのか、冬になっても残っています。食べ物が少なくなった季節、ヒヨドリなどがやってきて、実をついばんでいます。



やがてすっかり落葉し、赤い実だけが残し、枝や実に雪が降り積もった様子は、風情があります。冬枯れの高尾山など近傍の山を歩くとよく出会います。太い幹がまっすぐに立ち1～1.5mの間隔を保ち枝がまとまって放射状に水平方向に出て階層構造になる様子は、とても特徴的です。一般に、樹皮は白っぽくて、褐色の皮目(ぶつ^{ひもく}ぶつ)が点状に並びます。葉はハート形で葉柄が長く赤みがかっています。昔この大きな葉を、ご飯を包むのに使ったので、飯桐^{いいぎり}と呼ばれる

んだそうです。初夏に黄緑色の花を咲かせますが、茂った緑葉を背景にするとあまり目立ちません。葉、樹形、実、花、どれも面白く味わい深い木です。この森の中でも見ることができます。(鳥飼)

木もれびの森の虫たち

今年も残すところ1か月となりました。今年は大きな災害に数多く見舞われましたがこれから雪害も心配です。寒さも段々と厳しくなり、気温に合わせて体温を変化させる森の虫たちは、なるべく温度変化の少ない日陰の土の中や樹皮の下、葉の裏などで寒さをこらえじっとしています。まだ本格的に寒くはありませんが、虫たちと出会うことは難しくなってきました。冬の昆虫は餌も食わず、呼吸量も半分以下にしエネルギーを消費しないようにして休眠状態になります。

そして、グリセリンを体内で作りだし凍結を防いでいます。万一凍ってもグリセリンが水分と結びつき細胞の破壊を防ぐことによって、解凍すると生き返ることができます。

しかし、ほとんど活動しない冬の昆虫で唯一活発に活動しているのがフユシャクガです。木もれびの森でも多く見受けられ、それが報道されたため注目されました。どのようにして、寒さに適応する能力を身につけたのでしょうか、教えてほしいです。オスは飛んでいるのをいくらでも見られますが、羽根を持たず省エネルギーな生き方をしているメスを見つけるのは至難の業です。撮影に挑戦して皆さんにご披露できたらいいなと思っています。(海野)

10月～11月撮影 活動地、中央緑地



ホソハリカメムシ



ゾウムシの一種



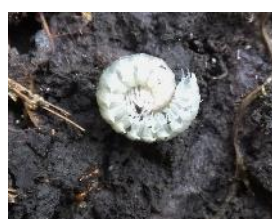
テントウムシと抜け殻



ダンゴムシ集団(樹皮の下)



ツマグロオオヨコバイ
(葉の裏)



何か?の幼虫
(土の中)



ジョロウグモの卵塊



シロアリとムカデ
(樹皮の下)